

4. 「遊び」などに関する調査報告

松岡 弘（大阪教育大学教育学部）

1. 研究方法

幼児の生活と発育に関する調査の一部として“子どもの遊びや行動・性格”などについて、保護者を対象に次の19項目の質問に対して5段階の評定を求めた。

- ① 室内あそびよりも戸外あそびがすきか。
- ② 砂あそびや積木あそびがすきか。
- ③ ブランコ、鉄棒、滑り台など固定遊具であそぶのがすきか。
- ④ 鬼ごっこや、かけっこがすきか。
- ⑤ 三輪車、自転車がすきか。
- ⑥ 友だちと一緒にあそぶのがすきか。
- ⑦ 動作は活発であるか。
- ⑧ ボタンが上手にかけられるか。
- ⑨ 衣服を着たり脱いだりすることがはやいか。
- ⑩ 人や物によくぶつかることがあるか。
- ⑪ ころびやすいか。
- ⑫ よくけがをするか。
- ⑬ 外に出るとすぐ疲れを訴えるか。
- ⑭ 寝おきや寝つきがよいか。
- ⑮ 臆病であるか。
- ⑯ 神経質なところがあるか。
- ⑰ 内弁慶であるか。
- ⑱ 物事にあきっぽく、ねばりがないか。
- ⑲ よく泣かされるか。

以上19項目について、それぞれ「非常によくあてはまる」「まあまああてはまる」「どちらともいえない」「ややあてはまらない」「まったくあてはまらない」のいずれかに○をつけるという方法で判定を求めた。

2. 結果

カウプ指数18.0以上を肥満児，同15.0～15.49を普通児，14.0未満をやせ児として

比較検討した（カウプ指数13.0以下をやせ児とすれば、各年齢とも数名以下であり、サンプルとして少なすぎるので、14.0未満をやせ児としてここでは取り扱った）。

保護者（主として母親）による子どもの遊び、行動、性格の判定結果をまとめてみると、おおよそ次のような特徴が指摘できる。

- ① 肥満児も室内あそびよりは戸外あそびを好む傾向がみられた。これは日常室内にいる時間が長いので、かえって外に出たがる傾向が強いと考えられる。
- ② 肥満児は動作は活発ではなく活動的とはいえないが、必ずしも運動が嫌いとはいえない。
- ③ 肥満児には神経質な者と全くそうでない者の両方があり、内弁慶な者とそうでない者の両方がある。これは、肥満の程度や形成過程、親の養育態度の差などによるものであろうが、幼児肥満の指導上で考慮したいことである。
- ④ 肥満児・普通児・やせ児を問わず、多くの母親は子どもの遊びや運動能力の発達については肯定的な評価をしており、性格面では平均的なものと評定している者が多かった。

5. 幼児の生活時間、体格、運動能力に関する調査

森 下 はるみ（お茶の水女子大）

○ 目 的

幼児期の健全な身体発達に関わりのある諸要因のうち、生活時間・体格・運動能力について、その実態と相互関係を明らかにしようと試みた。

○ 対象と方法

- ① 在宅・在園時の睡眠、食事、遊びなど各活動の所要時間と時刻を調査した。（440例）
- ② 身長、体重、皮脂厚などを測定し、肥満度の指標としてKaup指数を算出した。
- ③ 運動能力調査として、走・跳・投げかの測定をおこなった。

以上の調査は77年秋から78年冬にわたっている。対象の年齢は3～6歳である。

○ 結果と考察

- ① 生活時間についてみると、週日は在園時間の短い幼稚園型と、それが長い保育所型で日課が異なり、在園時間は最小3.5時間から最長10.5時間にわたる。しかし、午前中の日課は両型とも類似している。体育的活動については、時間的、質的に施設差が大きく、登園後から一斉保育までの自由あそび時だけに限られているもの、週何時間か、定期的に体育専任教師



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



2. 結果カウプ指数 18.0 以上を肥満児, 同 15.0~15.49 を普通児, 14.0 未満をやせ児として比較検討した(カウプ指数 13.0 以下をやせ児とすれば, 各年齢とも数名以下であり, サンプルとして少なすぎるので, 14.0 未満をやせ児としてここでは取り扱った)。

保護者(主として母親)による子どもの遊び, 行動, 性格の判定結果をまとめてみると, おおよそ次のような特徴が指摘できる。

肥満児も室内あそびよりは戸外あそびを好む傾向がみられた。これは日常室内にいる時間が長いので, かえて外に出たがる傾向が強いと考えられる。

肥満児は動作は活発ではなく活動的とはいえないが, 必ずしも運動が嫌いとはいえない。

肥満児には神経質左者と全くそうでない者の両方があり, 内弁慶な者とそうでない者の両方がある。これは, 肥満の程度や形成過程, 親の養育態度の差などによるものであろうが, 幼児肥満の指導上で考慮したいことである。

肥満児・普通児・やせ児を問わず, 多くの母親は子どもの遊びや運動能力の発達については肯定的な評価をしており, 性格面では平均的なものと評定している者が多かった。